

若くて才能豊か、しかもイケメンという、  
天が二物も三物も与えた和系王子が伝統の世  
界に続々登場している。今から知っておく  
と、将来自慢できる。そんな、明日の名人。  
の一人が尺八奏者の中村仁樹さん(30)だ。  
五歳からピアノを習い、中学時代にギター  
に触れ、バンドを組んだ。ごく一般的な音楽  
経験が、大きく転換したのは十七歳の時。父  
が趣味で吹いていた尺八を手にとった。  
「実家がお寺で、読経の声を聞いて育ちまし  
た。尺八は、虚無僧の笛だけあって旋律がお  
経の抑揚に近くて、僕には馴染んだんです」  
たまたま、母の知人に高名な尺八の先生が  
いたことが道を決定つけた。先生の吹く音は  
「瑞々しくて密度のある、他のどの楽器とも

違う音」だった。愛媛から東京の先生の元に  
通って練習を積み、東京藝術大学音楽学部邦  
楽科に合格。家元の子女などが集まる中、高  
校から尺八を始めた中村さんは異色だった。  
だが、新人コンクールでの優勝が自信とな  
り、演奏家として身を立てることを決意し  
た。大学時代に知り合った二十五絃奏者の  
衣袋聖志さんと和楽器ユニット「運-RE  
N-」を結成。卒業後に出したCDが評判  
となり、今では地方公演やサポート演奏、個  
人演奏会など多忙な日々を送る。  
「伝統の音楽も、例えば江戸時代には当時の  
最先端だったはず。僕も現代の風を入れるこ  
とで、尺八という楽器の無限の可能性を広げ  
ていきたいと思っています」

伝統を担う若手たち

# 和系イケメン図鑑

日本が誇る芸能や技術の世界で活躍する若き『才色兼備、王子を先物買い！』

撮影 志水 隆 山田真実 鈴木七絵

CATCH UP

伝統楽器のもの  
可能性を探る

中村仁樹(尺八奏者)

なかむら・まさき 一九八三年愛媛県生まれ、東京藝術大学  
音楽学部邦楽科尺八専攻を卒業。九月の地方ツアーや、十二  
月一日開催の「運-RE-N-」ワンマンライブなどの予定は  
公式HPでチェックを。好きなタイプは「運しい人、かまっ  
てほしい人」(笑)。ライブスタイルが「観たといひです」(笑)